

水無月

〔みなつき〕 令和4年6月

この月に雨量が少ないと、稲が開花結実しにくいので、豊作を祈って雨乞いの祭りが盛んに行われました。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

不自由を常と思へば

不足なし

徳川家康遺訓

今月のことば

不自由を 常と思へば 不足なし

― 徳川家康遺訓 ―

自由とか民主とか、その文字の主張は立派である。然しこれを自分に当てはめると、すべて自分の考え、生活が自由であるとばかりはいえない。

人生は百を満点とすれば、七十、八十点は不足であるが、それが常だと思つて満足している人の方が幸せである。

徳川家康が戦国の世にあって、不自由を常としたことは、戦国という時代即応の生き方だったとしてよい。

自分の自由と他人の自由とがぶつかれば、どちらかが折れねば片が付かぬ。片が付くということは、片方が折れるということである。東照公家康の教えが、実際の生き方を示したものととして、顧みられるのは、その考え方が実際のだからである。

〔神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋〕

季節のまつり

大祓

六月三十日

常に清らかな気持ちで 日々の生活を

私たちは日々の生活を営むうちに知らず知らずの間に罪けがれを受け続けています。それを祓うための儀式が大祓で、これは記紀神話に見られる伊弉諾尊の禊祓を起源とし、宮中においてもふるくからおこなわれてきました。中世以降、各神社で年中行事の一つとして普及し、六月三十日と十二月三十一日に行われます。十二月の晦日の大祓に対して、六月は夏越の大祓といわれ、かやでできた茅輪をくぐり、紙の人形に息を吹きかけてけがれを祓い清めます。

衣替

「袷」から 「単衣」に



四季の移ろいがはっきりしている日本独自の風習ですが、衣替は「更衣」といわれる宮中の行事で、「綿貫」といい、綿入りの衣服から綿を抜いたことによります。夏着用は六月一日、冬服は十月一日ですが、現在これを守るのは学校や銀行、企業の制服くらいのもので、時期はさほど厳密ではなくなっています。ただ着物では今も衣替えの習慣が守られており、裏地をつけた「袷」から、裏地のない「単衣」に替えます。

「芸事は六歳の六月六日」に始めるのがよいといわれているのは？

六月六日は「お稽古始めの日」とされています。これは、昔から「芸事は六歳の六月六日に始めると上達が早い」といわれているからです。

一説によると、指折り数えると五までは親指から順に指を曲げて数えますが、六は小指を立てて数えることとなります。そこから、「子が立つのは六」と縁起担ぎをするようになり、六歳六月六日を芸事始めの日にするようになったといわれています。また、六十干支によるものとする説もあります。昔は数え年で年齢を数えていたので六歳は実際には満五歳になります。五歳は十二ヵ月×五で六十ヵ月に相当します。六十という数字は六十干支に通じ、干支が一巡したと考えられ、新しいことを始めるのにふさわしい時期だとされたわけです。

百載無窮

永久極まりなく無限なこと。天地は永遠に不變きわまりないこと。



牡丹

参考文献 『日本人数のしきたり』 飯倉晴武（青春出版社）

令和 4 年
2022年

6 月

日	月	火	水	木	金	土
			1 先勝 とり	2 友引 いぬ	3 先負 三りんぼう る	4 仏滅 ね
5 大安 うし	6 赤口 芒種 三りんぼう とら	7 先勝 う	8 友引 たつ	9 先負 一粒万倍日 み	10 仏滅 天赦日 一粒万倍日 うま	11 大安 入梅 ひつじ
12 赤口 さる	13 先勝 とり	14 友引 いぬ	15 先負 る	16 仏滅 ね	17 大安 伊勢神宮月次祭 うし	18 赤口 三りんぼう とら
19 先勝 う	20 友引 たつ	21 先負 夏至 一粒万倍日 み	22 仏滅 三りんぼう 一粒万倍日 うま	23 大安 ひつじ	24 赤口 さる	25 先勝 とり
26 友引 いぬ	27 先負 る	28 仏滅 ね	29 赤口 うし	30 先勝 大祓 とら		

二十四節気

【芒種 ぼうしゆ】… 六日

旧暦五月午の月の正節で、雨が間断なく降り続き、農家はことのほか多忙を極めます。芒種とは芒のある穀物、すなわち稲を植えつける季節を意味しています。

【夏至 げし】… 二十一日

旧暦五月午の月の中気で、この日、北半球では昼が最も長くなり、反対に夜が最も短くなります。夏至は夏季のまんなかで、梅雨しきりといったところです。

六曜・選日

《六曜》

- 【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし
- 【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
- 【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉
- 【仏滅】… 万事凶、患えは長びくおそれあり
- 【大安】… 何事をするにも吉の日、大吉日
- 【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

- 【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
- 【二粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始
- 婚姻は吉、借りの、離別は凶

七十二候《6月》

夏至

初候・乃東枯（なつつかれくさかるる）
次候・菅蒲華（あやめはなさく）
末候・半夏生（はんげしよつぎ）
半夏至の名をもつ草の葉が白く染まる

芒種

初候・蟪蛄生（かまきりしよつぎ）
次候・腐草為螢（くされたなきほたかなを）
末候・梅子黄（うめのみきはむ）
梅の実が薄黄色に色づく

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに3つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

「入梅」は十一日、

「えぞ梅雨」とは？

一般に北海道に梅雨はないといわれていますが、これは梅雨前線がおもに本州上に停滞することや、梅雨のわりには前線の勢力が衰え、北上する速度が非常に速くなっていることから、北海道で梅雨によると思われる降水が長く続かないことが多いからです。また、年によっては二週間程度、本州の梅雨と同じ時期にぐずつき肌寒い天気が続くことがあり、これを「蝦夷梅雨」（えぞつゆ）と呼んでいます。おもにオホーツク高気圧の勢力南下にともなう気象で、冷涼なのが特徴で、俗に「リラ冷え」とも呼ばれています。尚、気象庁ではこれを梅雨とは認めていません。

安産祈願 6月の戌の日

2日 (木)
14日 (火)
26日 (日)

* 戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。



祝祭日には国旗を掲げましょう